



大学から見た実装技術者の 育成について

内木場 文男*

民間企業から日本大学に転進し、まもなく3年を迎えようとしております。その間に、エレクトロニクス実装の分野では、携帯電話・情報端末を中心とした根強い要請にもとづく継続的な技術革新が続けられてきました。また一方で、次世代カーエレクトロニクスの画期的な発展に備えて、本格的な研究開発が始まろうとしております。民間企業での経験を踏まえた上で、大学においてエレクトロニクス実装分野の研究と教育の両方を職業とする立場から、表題を考察させていただきます。

エレクトロニクス実装分野においてはこれまで、産業界が主導的に業界を牽引し、人材育成を含めて重責を果たしてまいりました。今後もこの傾向は続くものと思われまます。大学、あるいは、大学院を卒業して、初年度にこの分野に配属される大多数の新卒技術者は実装技術に興味はあるものの専門知識あるいは技能を持たないまま、いわゆる実務を通して教育を施されているものと思います。たとえば、これは電気電子系学科を卒業し、回路設計、あるいはデバイス設計等に携わる新卒技術者との間には大きな差が見受けられます。後者の場合は大学において主要な科目と捉えた上で基礎をしっかりと築くようにカリキュラムが構成されています。そのため、これら分野では基礎力のある程度持つ技術者が毎年安定して輩出されます。

一方、エレクトロニクス実装技術は、大学において体系的に教育を施すところはほとんどありません。産業界においてエレクトロニクス実装をニーズとしてなかなか捉えにくいこと、また、エレクトロニクス実装が従来の学問体系になじみにくいことも一因となっているように思われます。かつてさまざまな分野の発展においては、優秀な人材の量的かつ質的確保がキーポイントとなりました。エレクトロニクス実装のより一層の発展のためには、さらなるニーズの拡大と共に優秀な人材の継続的供給が必要と思われまます。現段階においては大学でエレクトロニクス実装技術者を目指す人材を多数育成することは難しいと思われまますが、いくつかの大学では研究室単位で優秀な人材を輩出してきています。小職においてもエレクトロニクス実装の将来を担う人材を継続的に輩出する拠点となるよう努力、邁進していくつもりでおります。

さて、末筆にて恐縮ですが、第20回エレクトロニクス実装学会講演大会が本学駿河台キャンパスで開催されることになりました。そのご縁をもちまして、実行委員長にご指名いただきました。より多くの方々のご参加をお願いし、エレクトロニクス実装分野がますます発展することを祈念し、巻頭言を閉じさせていただきます。